

データで語る、 学生の成長と大学の進化

学生調査2025 結果報告と未来へのコミットメント

総合評価：極めて高い水準の学生満足度

本学の教育活動に対する学生の評価は、総合的に高く、約9割の学生が大学での学びに満足しています。私たちはこの客観的なIRデータを出発点とし、さらなる進化を目指します。



89.1%

授業満足



88.2%

課程満足



88.7%

生活満足

成長の証明：学年進行に伴う満足度の大幅な向上

入学直後から高い満足度を維持しつつ、上級生になるにつれてさらに評価が上昇。
本学の教育の真の価値（成果）は、学びを深めるほど実感されています。

確かな伸びしろと教育成果の実感

1・2年次

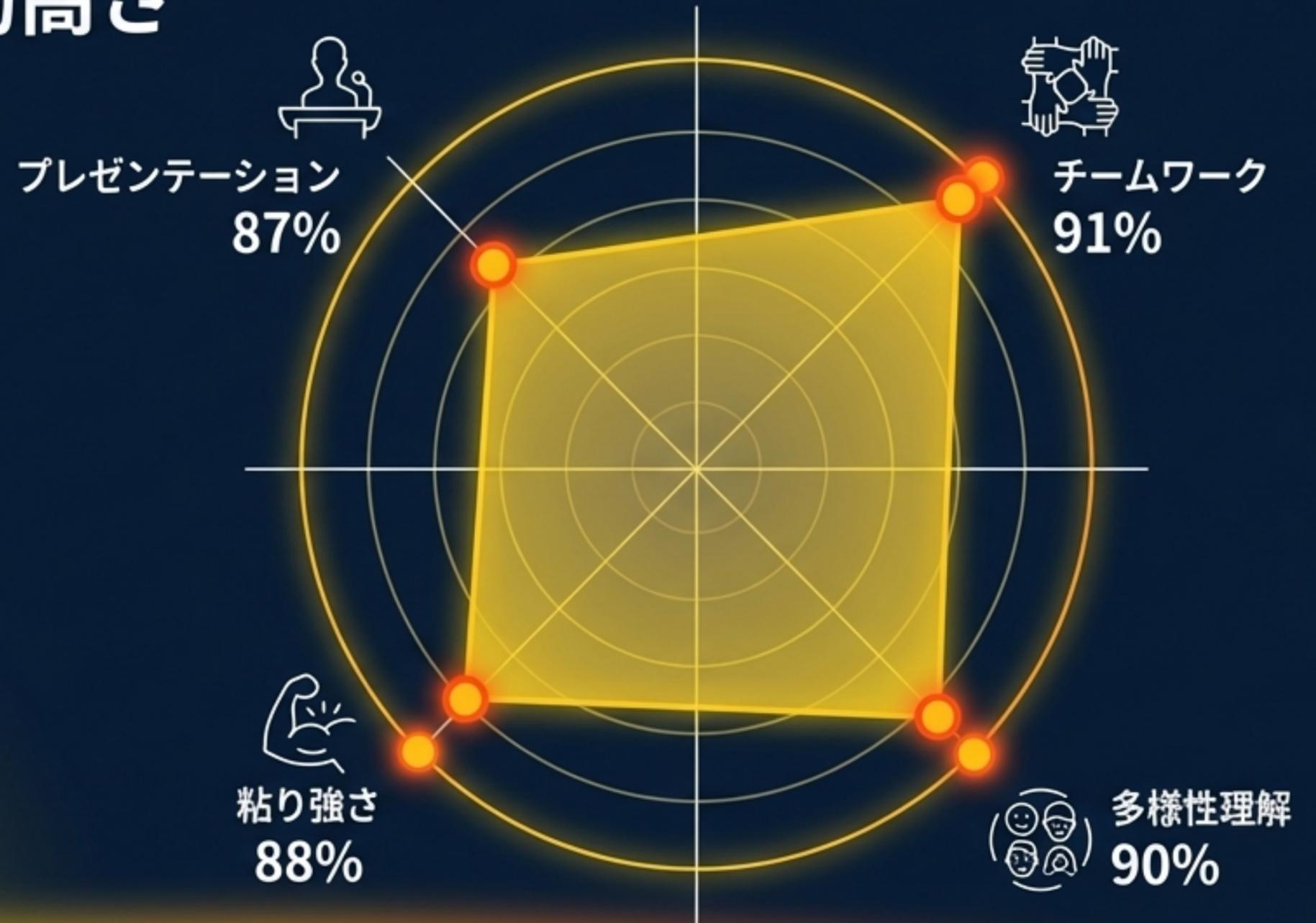
約85%

3・4年次

約93%

人間力の形成：スポーツ教育を基盤とした 「非認知能力」の圧倒的高さ

本学の教育は、単なる知識の修得にとどまりません。スポーツ教育等の経験を通じて、社会で最も求められる「人間力（非認知能力）」が強く育成されています。



社会評価への接続：高い「推奨意向」

確かな教育成果は、「自分の所属学科を後輩や友人に勧めたいか」という高い推奨意向に結びついています。これは本学の社会的価値の証明です。

現代経営学科

72.5%

体育学科

71.6%

教育経営学科

68.8%

※この誇るべき教育成果を、今後の学生募集等の外部評価へさらに反映させていくことが私たちのミッションです。

IR的確信：何が「高い満足度」を生み出しているのか？

データが導き出した真実。それは、本学の学生の満足度と推奨意向を牽引しているのは、単なる学習時間の多寡ではなく、スポーツ等を通じて培われる『人間力の向上』と『質の高い教育経験』であるという事実です。



誠実な自己評価：客観的データが浮き彫りにした「直面する課題」

進化し続ける大学であるために、IRデータが示す弱点から目を背けません。
現在、大きく3つの領域で課題を認識しています。

1. 教育体験の設計

特定学科（国際経済経営学科）における不満指数の高さ（**13.1%**）、および競技スポーツ学科2年次における一時的な満足度低下（**67.9%**）。

2. 学習習慣の形成

特に1・2年次において、授業外の学修時間が「**1時間未満**」の学生が半数近くを占める現状（**1年46%**、**2年56%**）。

3. 学生指導の深さ

一部学科における学生調査回答率の低下（**75.8%～86.5%**）に見られる、教員と学生間のコミュニケーションパイプの細さ。

未来へのアクション： データを進化へ繋ぐ「3つの重点改善領域」

見出された課題

コミュニケーションの不足

2年次特有の教育課題

学修時間の少なさ

データの裏付け

特定学科でのアンケート回
回答率低下

競技スポーツ学科等における
2年次の満足度低下

1・2年次における1時間未満
学習者の多さ

重点改善領域（解決策）

学生指導力の向上
(学生との対話・コミュニケーション量の絶対的な確保)

2年次教育の再設計
(適切な授業の予習・復習課題の確実な付与)

学修時間の底上げ
(卒業研究・ゼミ論の完全回収による学修サイクルの確立)

「成長の軌跡」から、次なる「進化の地平」へ

本学は、高い「人間力」を育む独自の教育基盤を誇りにしています。

今回得られたIRデータを、単なる現状報告として終わらせることはありません。

私たちは、課題に対して透明性を持ち、データに基づく的確な改善を続けることで、

学生とともに、絶えず進化し続ける大学であることを約束します。

引き続き、本学の教育活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。